

別紙2

三重県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和8年7月)

情報連絡員数	40	名	回答者数	40	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食 料 品	1	3	0	1	3	0	2	2	0	0	3	1	0	2	2	0	3	1	1	2	1	0	4	0	0	1	3
	織 維 工 業	1	0	2	1	1	1	2	1	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	2	1	0	3	0	1	0	2
	木 材 ・ 木 製 品	0	1	1	0	0	2	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	紙 ・ 紙 加 工 品	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	印 刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	2	1	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0
	鉄 鋼 ・ 金 属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	一 般 機 器	2	1	0	2	1	0	2	1	0	0	2	1	1	1	1	0	2	1	1	1	1	0	2	1	1	1	1
	電 気 機 器	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	輸 送 機 器	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0
	そ の 他																											
小 計		6	10	4	5	12	3	8	11	1	1	16	3	3	10	7	0	16	4	3	10	7	1	16	3	2	8	10
非 製 造 業	卸 売 業		2		0	2	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0				0	2	0	0	1	1
	小 売 業	1	3	2	1	5	0	3	3	0	0	3	3	0	3	3	0	3	3				0	6	0	0	4	2
	商 店 街		1		0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0				0	1	0	0	1	0
	サ ー ビ ス 業		4					1	3	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1				0	4	0	0	3	1
	建 設 業	1	2	1				2	2	0	1	2	1	1	1	2	1	3	0				0	3	1	1	3	0
	運 輸 業		1					0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	0	1
	そ の 他		1	1				0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0				0	2	0	0	2	0
小 計		2	14	4	1	7	1	9	11	0	1	15	4	1	10	9	1	15	4				0	19	1	1	14	5
合 計		8	24	8	6	19	4	17	22	1	2	31	7	4	20	16	1	31	8	3	10	7	1	35	4	3	22	15

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和7年7月～令和8年7月)

三重県中小企業団体中央会

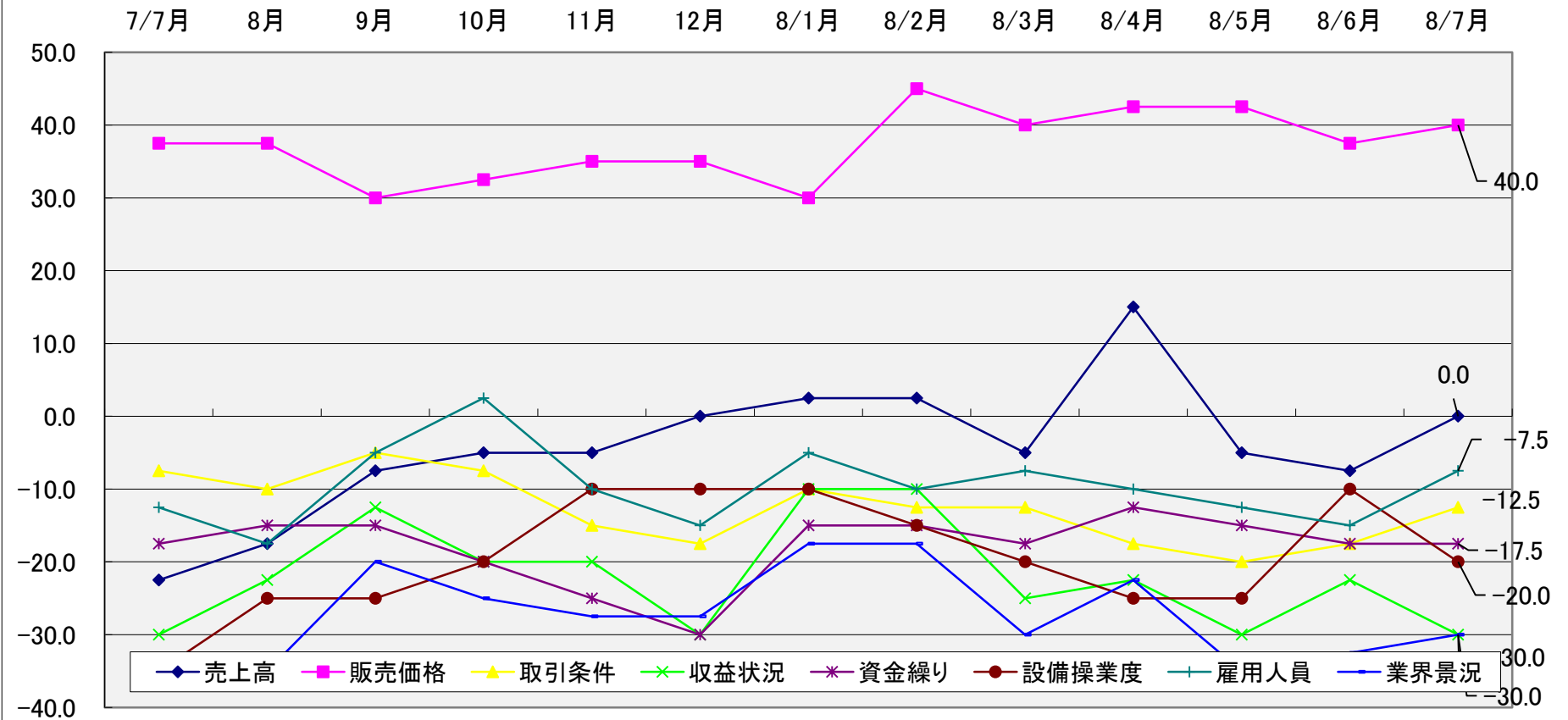
連絡員総数 40 名

	7/7月	8月	9月	10月	11月	12月	8/1月	8/2月	8/3月	8/4月	8/5月	8/6月	8/7月	増減
売上高	-22.5	-17.5	-7.5	-5.0	-5.0	0.0	2.5	2.5	-5.0	15.0	-5.0	-7.5	0.0	7.5
販売価格	37.5	37.5	30.0	32.5	35.0	35.0	30.0	45.0	40.0	42.5	42.5	37.5	40.0	2.5
取引条件	-7.5	-10.0	-5.0	-7.5	-15.0	-17.5	-10.0	-12.5	-12.5	-17.5	-20.0	-17.5	-12.5	5.0
収益状況	-30.0	-22.5	-12.5	-20.0	-20.0	-30.0	-10.0	-10.0	-25.0	-22.5	-30.0	-22.5	-30.0	-7.5
資金繰り	-17.5	-15.0	-15.0	-20.0	-25.0	-30.0	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-15.0	-17.5	-17.5	0.0
設備操業度	-35.0	-25.0	-25.0	-20.0	-10.0	-10.0	-10.0	-15.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-20.0	-10.0
雇用人員	-12.5	-17.5	-5.0	2.5	-10.0	-15.0	-5.0	-10.0	-7.5	-10.0	-12.5	-15.0	-7.5	7.5
業界景況	-35.0	-35.0	-20.0	-25.0	-27.5	-27.5	-17.5	-17.5	-30.0	-22.5	-35.0	-32.5	-30.0	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする

企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、中東情勢の影響及び円安による諸資材の高騰により、経営を圧迫する状態が続いている。 昨年からの米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。また、組合員の中から、拡張してきた漬物製造施設の防火設備の整備のために、多額の新たな投資が必要となり、漬物製造部門の廃業を決めた組合員がある。伝統ある企業であり、その決定が大変惜しまれる。
		醤油味噌	7月は生産が上向き、夏の繁忙期となった。引き続き中東問題と円安で原料・資材の高値が継続、供給不安を抱えながら日々生産を行っている状況である。今夏は食料品の値上げ品目が多く、消費者の買い控えの影響が出ないか心配である。原料穀物の相場状況は、欧州は熱波で干ばつ、米国も干ばつ影響、肥料、輸送費高から減産に向かっている。同じく大豆での収益増を見込みコーンの作付けも減っている状況で再び世界的な穀物相場高が予想される。
		他に分類されない食料品 製造業	連日の猛暑や酷暑日の連続により体調管理をしなくてはならない。熊本地震で被災された方々がどんなに大変かと思う。幸いにも学校は夏休みで、工場はメンテナンスを行う。だが加工賃は入ってこないので資金繰りは大変だ。 夏祭や花火があちこちで開催されていて活気を感じる。我が町でも長年花火が有名だが、企業や市民からの寄付が年々少なくなって、打ち上げ時間も短くなっている。
		製麺	今年6月に全国製麺協同組合連合会の総会があり、理事長は再選となった。7月21日に理事会があり、理事の役職が決定した。今年度もラーメンコンペティションが開催されるので、募集が始まった。11月4日に全国製麺業者大会を東京明治記念館で開催する。東海ブロックでは11月13日（金）に三重県担当で亀山市の株式会社キンレイで工場見学を開催する。三重県の関連業者にも呼びかけて参加をして頂く。
	木材・木製品	木材	住宅資材等の入手困難な状況は改善されてきたが新設住宅着工は鈍化が続いている。円安、輸送コスト、燃料費の高騰等もあり、国産材製品の荷動きは依然として低調でコストに見合った価格転嫁は進んでいない。
		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。従業員の確保が困難である。機械や消耗品等、修理費の価格が高い。
	紙・紙加工品	古紙	7月の仕入れ量は、段ボール・約100±3%位、新聞、チラシ・約90±5%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約93±4%位である。段ボール古紙の発生が前年比を上回る状態である。新聞・雑誌古紙の消費減から毎月前年比▲1%～▲9%である。一部の製紙会社は15年以上前から翌月現金支払いで取引をしている。今回の製品原紙値上げも進んだ板紙製紙会社から、銀行金利引き150日支払いから翌月現金に変更するとの申し入れがあり喜ばしい事であるが、長年に渡り取引きしている会社から、取引の継続を条件に、コストダウンの目的で、現在の取引より悪い条件や支払いに応じるよう圧力を受けており憤慨している所である。アメリカ合衆国とイラン、ウクライナとロシアの戦争により、日本の予算に変化があるのかもしれないし、日米の共同為替介入もあったことは良いと思われ、消費税を先進国並みに増税して国民の所得に支給することが良いと考えている。金利高となり、物価高や燃料不足等と実質的な収入や粗利の不足の状況であるが、古紙や古着の持ち去りやゴミの置き去りも撲滅出来る効果的な立法化を願うところである。
	印刷	印刷	一昨年、去年と7月情報連絡に、県からの印刷仕様書に著作権・コンテンツ版バイドール契約の理解が進んでいないと記載したが、今なおその状況が見られる。著作権を三重県に移譲すると謳いつつ、著作権は受託者に帰属と記載あり。
	窯業・土石製品	伊賀焼	政府の対応で円安を緩和するために為替勧誘が行われ、多少の円高傾向に向かったが今後の動向を見ていきたいと思う。原材料価格が少しでも安くなることを期待する。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、総じて堅調な状況である。中心は自動車車載部品関係で、特にEV関連の受注が好調である。ただ、材料費、消耗品費、その他経費の高騰が顕著になってきており、収益が圧迫される可能性がある。
		四日市市	中東情勢の影響は少なくなった。原材料費の値上げ連絡も先月に比べると少なくなってきたが、依然として仕入れ価格は高止まりしている。今後仕入れ価格が下がることもあまり期待できない。 相変わらず中部地域は自動車産業の設備投資の低下が響いていると感じる。半導体業界向けについてもひと時の過熱感はなくなったと思われる。全体的にはほどほどといった状況である。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	一般機器	津市	先月と同じく製品の方では利益は少なく、スクラップ屑の売上で、利益が出ている状態である。潤滑油やアルコール類の出荷制限は続いているがビニール袋については少しずつ入ってきている。ただし、今までは注文してすぐ納品されていたが、現在は2〜3週間後に納品される感じである。この所の暑さでエアコンがフル稼働しているが、製品価格には反映できないので、収支は悪化傾向である。
		伊勢市	先月に引き続きいろんな面でよくなってきている。生産設備の投資は堅調であり、工場の稼働率も上昇を続けている。原材料価格の高騰を売価のアップに転嫁もでき、収益状況は引き続き良い。ホルムズ海峡の通行困難で一時石油の流通に問題が出たが、今はこの影響を感じられない。代替の供給ルートが確保されたと思われる。しかし、長引けば石油価格の更なる上昇や入手困難の恐れもあり、早く紛争が収まってくれることを望んでいる。
	電気機器	鳥羽市	まだまだ厳しい動きであるが稼働が50%〜70%の動きが見られた。このまま上方へ進んで行くのか様子見である。
	輸送機器	伊勢市	受注は自動車部品では増加、一般機械器具は減少。自動車部品の増加は新規部品案件の寄与による部分もあるが、既存品も前年比増加と回復している状況である。イラン情勢の不透明感は継続、コスト増加要因は変わらず。今後の企業物価の動き、エネルギー価格の高騰による動力費の動向に注視したい。
非 製 造 業	小売業	青果	【野菜前半】 高温少雨の影響で高原野菜を中心に生育が不安定になり、価格は上がり気味。長野・群馬産キャベツと長野産レタス、北海道・長野産キュウリ、愛知・徳島産ナスも入荷が減少している。長野産とうもろこし、茨城産・徳島産のさつまいもは順調に入荷してきた。こうした中、宮崎・鹿児島産ゴーヤは旬を迎え入荷が急増し、お買い得になっている。 【野菜後半】 高温と干ばつで少なくなっている物もあるが、全体的に順調に入荷。ニンジン、青森産に加えて北海道産も入り値下がりしている。 群馬・長野産キャベツも順調に入荷、トマトは岐阜を中心に入荷が増えている。ジャガイモも北海道産の出荷が始まった。暑さに強い鹿児島産・高知産オクラ・モロヘイヤ・ゴーヤも順調に入荷している。 【果物前半】 スイカは新潟・長野産がピークを迎え、山形産も始まった。生育は順調で甘さも十分である。モモは山梨・愛知産の白鳳となつこ、長野産のあかつきが出回っており、食味が良い。愛知産ハウスみかんは平常よりやや早く最盛期になっている。メロンは山形・北海道・静岡から様々な品種が入っている。お中元とお盆に向けて需要が高まっている。 【果物後半】 県内産・愛知産ナシ、幸水は今年は出来が良く味も良好、スイカの長野産・山梨産とも順調に入荷している。山梨のモモは入荷も順調で味も良い。愛知・佐賀産のハウスみかんは最盛期、山形産デラウエアは食べ頃になってきている。
		自転車	夏のボーナス100万円超えの声が聞こえる一方、年金生活者は大変だ。生活必需品が値上がりする中で少しでも食費を控えよう、自転車等使える物は出来る限り長持ちさせようとする節約志向は増々強まっている。ここに来て“自転車離れがじわり加速”自転車の交通違反に対する青切符導入から3ヶ月過ぎたある日、ユーザーに聞くとルールを意識しているが、「通行区分」がわかりにくい等の理由で、利用頻度の変化は、「乗らなくなった」「乗る頻度が減った」を合わせると約2割が自転車から遠ざかっている。 他にも子供同乗での保育園送迎も車に切り替えたとの声が聞こえる。 この様な状況下では各ショップ商品の動きは皆無の状況となっている。
		電器	本格的に夏場に突入したが、エアコンの動きはやや緩やかな状況から始まった。2027年問題の問い合わせが多く、正直なところメディアで伝えて頂く内容だと購入・選択の判断の決め手となりにくかったようだ。“価格が上がる前に購入しておきましょう”なのか“省エネに寄与できるよう価格は上がってもこちらを選びましょう”なのか、という判断で、どうしたらいいのか、という声をよく聞いた。7月半ばを過ぎて猛暑がやってきたが有難かったのがメーカーのエアコン在庫の状況で、どうしても手に入らない事にはならず、工事に追われている販売店が多い状況だ。8月に入り猛暑がどれくらい続くのか、熊本のことも含めてこの先心配である。
		石油	熊本地震により大きな被害が出た八代市、宇城市、氷川町においては、7月末時点で半数以上のSSで営業を再開している。一時停止していた八代市内の油槽所からのガソリン出荷が再開され、順次被災地へのガソリン供給が進められており、今後通常時の最大4倍の供給量を確保できる見通しとなっている。 資源エネルギー庁は元売会社に対し応援供給を要請し、福岡県と大分県に全国からタンクローリーを配備して、停電地域に対して通常の1.3倍の給油が可能となる供給力を確保されている。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
		スポーツ	危険な暑さが続いている中、高校野球の地区予選等スポーツ大会が行われている。熱中症対策グッズも各メーカーから発売されているが他業種に比べて価格設定が高いため売上にあまり影響がない。
	商店街	熊野市	熊野大花火大会も間近に迫り、商店街では今年も同日開催される共催物産展への出店応募も締め切り日前にも関わらず枠数に達した状況。（出店者の割合：市内約3割・東紀州地域約4割・その他地域約2割）今年は平日開催とあって観客数は残念ながら減る見込みではあるが、出店者にとっては平日とはいえ期待をするイベントというのが伺える。
	サービス業	旅館	昨年の夏のシーズンは大阪万博に引っ張られ、どこも大きく業績を落としていたが今年は対前年同月比150%、しかし、2019年同月比は60%程度であった。昨年を大きく上回ったが猛暑による出控え、熊本地震等自然条件に関わる諸問題とともに物価の高騰、消費者の節約志向の高まり等厳しい経営環境に置かれている事業等が多いのが現状である。
		警備	今年も猛暑のため外勤警備員には、ファン付空調服の着用を義務付けた。
	建設業	総合工事業	2026年6月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ約1割減となっている。内訳でみると、国・県の減が要因で国事業の減が大きい状況だ。4月から6月のトータルでみても約1割の減、国事業の減少が大きな要因である。
		内装工事業	対前年同月比で6月に続き大幅な増加となった。ただ物価高による原材料価格の高騰等により、建設関係の受注は減少傾向にあり、今後業界の見通しは厳しい。
		水道工事業（亀山市）	亀山市からの委託業務について、量水器の取替は毎月順調に契約個数を行っている。漏水修理についても減少傾向ではあるが、順調に行っている。資材についても高価が続いているが品物の入荷が途切れることはなく、在庫切れは起こしにくい状況である。しかし価格の高騰はまだまだ続くようで、受注には厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	県への組合決算書類の提出ありがとうございます。
食料品	製麺	引き続き業界の対応いつも有難うございます。仕入れ商品の値上げがあり、当組合としても値上げを順次進めていきます。また大きく変っていく事が予想されますが、伊勢うどんを中心に取り組んで参ります。
繊維工業	衣料縫製	円安による原材料の値上がり、石油の値上がりによる経費の増加、最低賃金の上昇など経営環境は悪化の一途と想定されます。国内の自給率を高めるため、AIなどの活用で生産効率を上げなければなりません。縫製工場にとっての最大の悩みは、生産機器の進歩がほとんど無いことです。特にミシンは旧態依然としてデジタル化が進んでいません。国内の縫製機器メーカーへの開発研究費の投資を行うように要望します。このままでは手作業などの伝統産業しか生き残れません。
一般機器	四日市市	中東情勢がひと段落した感がある。高騰した価格が今後どのように変わっていくのか注意が必要です。賃金アップに向け販売価格への転嫁が今後の課題です。
小売業	石油	原油の輸入量を安定させ、価格の高騰が一段落するまでは、引き続き緊急的激変緩和措置の継続を強く要望する。
サービス業	旅館	需要喚起策として発表された「ネクスコ中日本」の高速道路料金の割引についてこの夏のシーズンに間に合うよう早く告知することと利用方法の簡素化を早急にお願いします。